

屋島山上交流拠点：パノラマ展示

屋島山上交流拠点の「パノラマ展示室」は、19 世紀末に日本で流行した 360 度のパノラマホールをベースにした半円形のギャリースペースである。曲面のパノラマ絵画や床に置かれている立体オブジェを展示している。絵はこの立体物へとつながるように描かれており、平面と立体表現が連続した作品である。通常の額縁に入った絵画とは異なり、パノラマ絵画は 165 度の角度から見ることができ、観客はその光景に没頭することができる。

作品の主要テーマは 1185 年に起きた屋島の戦いである。アーティストの保科豊巳氏によるもので、遠近法を用いて人間と自然の関係を表現し、戦いの中の様々なドラマを強調する。自然の脅威、光と闇、静かな海、夜の不安といった要素である。完全に歴史的に正確に描かれているわけではないが、戦いの重要な瞬間が見え、よく見ると絵の中にメッセージが隠されていることもある。